

第5期多摩区区民会議

第1回「多摩区の魅力いきいき部会」摘録

日時：平成26年12月5日（金）18時～20時

場所：多摩区役所

出席：（委員）杉下部会長、矢野副部会長、安陪委員、荒井委員、岩野委員、辻野委員、藤原委員、
細埜委員、山下委員、余湖委員
（事務局）日向企画課長、井川係長、三枝職員
（コンサルタント）佐藤、中島

次第：

1. 開会のあいさつ
2. 議題
 - （1）専門部会の設置について（構成員、正副部会長の確認）
 - （2）スケジュールの確認
 - （3）取組テーマ・審議課題について
 - （4）審議課題の検討方法について
3. その他

1. 開会

※部会長あいさつ

2. 議題

(1) 専門部会の設置について

※コンサルタントより前回の全体会後に開催した打ち合わせの内容について説明を行った。

(2) スケジュールの確認

※専門部会の審議のスケジュールの確認を行った。

(3) 取組テーマ・審議課題について

※コンサルタント及び事務局より資料3、資料4の説明を行った。

(余湖委員)

- ・多摩区には、多摩川音頭があるが地元の音頭なので多くの人に知ってもらいたい。このため、多摩川音頭を小田急やJRの登戸駅の発車ベルに使えたら良いと思う。発車ベルは、各駅の駅長さんの裁量で決められるらしい。
- ・多摩川音頭の歌詞には、地元の名所や史跡のことが唄われている。このため、区内の小学校の授業で取り扱ってもらえると、子どもたちに多摩区の歴史などを知ってもらえると思う。
- ・今、多摩川音頭を歌ったり演奏することができる人たちの高齢化が進んでいる。今後も継続したいので何らかの形で残るようにしたい。

(藤原委員)

- ・老人クラブでは、何かの行事があるたびに多摩川音頭を使わせてもらっている。また、登戸小学校でも使われているらしい。

(杉下部会長)

- ・多摩川音頭については、今後どのようなものを把握して魅力発信になるかどうか検討したい。

(辻野委員)

- ・区民に多摩川音頭さえ認知されていない。他の魅力でも同じように区民に認知されていないと思う。他のものでも同じようなものがあるかどうか、把握する必要があると思う。
- ・多摩区には、生田緑地や多摩川の自然、藤子・F・不二雄ミュージアムなどの文化施設、かつての戦争の研究施設があったり、資源がたくさんある。これを有機的につなげることができれば、もっとPRできるのではないかな。

(矢野副部長)

- ・多摩区には多種多様な魅力資源が点在しており、住みやすく、環境が良いが、これらを世の中にアピールできていないことが課題ということは、今日出席されている委員は同じことを課題と思われていると思う。
- ・生田緑地は、今年度から指定管理になったが、運営がだいぶ変わったと思う。良くなった。

(事務局)

- ・指定管理になってから、緑地を一体的に管理できるようになり使いやすくなった。また事業の内容も民間の経験を活かして行っているの、だいぶ充実してきたと思う。

(山下委員)

- ・多摩区で今何が課題かと考えたところ、多摩区は将来市内で最初に高齢化が進み若者が少なくなると言われている。このため、子育て世代の応援が必要なのではないかと思う。いろいろ他都市の事例を調べたところ、空き家を子育て世代へ貸すという施策があるらしい。特にシングルマザーなどに空き家を安く貸せるような支援の事例が良いと思った。また、子育て支援は、地域コミュニティに係るところもある。最近では国などでも子育て支援のために空き家を安く貸す取組をやっているようである。このような、子育てがしやすい環境をつくっていく必要があると思う。

(杉下部会長)

- ・山下委員のお話を聞くと、人・まち・わづくり部会のテーマに係るようにも思える。調整が必要かもしれない。

(山下委員)

- ・区民会議とは、行政に提言する組織と聞いているが。このため、子育て世代に空き家を安く貸すような提言はできないのか。

(事務局)

- ・区民会議が提言する内容は、市民が主体もしくは市民と行政が協働ということが前提になる。このため、提言については、課題とその解決方法を記す必要がある。

(藤原委員)

- ・若い世代が住むためには、まずは価格も含めて良い住宅があること、そして教育環境、生活環境、自然などの環境が良いことだと思う。

(辻野委員)

- ・この部会で求められていることは、今多摩区にある資源をつかって市民と行政の協働で区の魅力の向上、まちの活性化を図っていくかということである。自分たちでできることの提言なので、自分たちでどのように魅力の向上、まちの活性化を図っていくかを考える必要がある。

(杉下部長)

- ・自分たちでできること、市民と行政の協働は前提であるが、山下委員からのご意見を、どのように自分たちでできること、市民と行政の協働で取組んでいくこととして検討するかも大事だと思う。
- ・多摩川音頭や多摩川梨、藤子・F・不二雄ミュージアム、生田緑地を整理すると多摩区の観光というものにつながってくると思う。観光の中でそれぞれの魅力を取り上げていくことができると思う。
- ・藤原委員のご提案の「住環境を整える」は、いろいろなことに関係してくると思う。このため、みなさんの頭の隅に置いていただきながら審議課題を考えるのが良いと思う。

(矢野副部長)

- ・地域コミュニティは、人・まち・わづくり部会に関わってくると思うが、どうなのか。

(コンサルタント)

- ・先日の全体会の中での「人・まち・わづくり部会」の打合せでは、新しい人と人とのつながりを考えていけないといけない、今は携帯やネットを介したつながりが多くなっているが、しっかり顔を合わせたコミュニケーションが必要であるという意見が出されていた。それと多摩区には3つの大学があることが特徴であるが、そこにいる学生さんがどのように地域と関わるか、たとえば災害時にマンパワーとして学生さんが関わってくれると良い。そのためには普段からどのような付き合い方をしたらよいのかという意見が出されていた。
- ・要するに人と人、人と地域のつながりについて考えていきたいという意見が多かった。

(事務局)

- ・補足であるが、高津区ではいろいろな団体が関わって防災の取組を行っているという話があった。事務局の宿題として、その高津区の取組を調べてきてほしいという依頼があった。
- ・また、まちづくり協議会で、町内会加入率が100%の地区にヒアリングをしているらしく、そこでどのような話がされたかを聞いてきてほしいと依頼があった。第1回の「人・まち・わづくり部会」では、以上のことを調べて報告したいと思っている。

(安陪委員)

- ・生田緑地については、最初は都会の貴重な緑ということで自然保護がメインの緑地であった。しかし、せっかくの緑なので、多くの区民や区外の人に緑地を楽しんでもらおうということから、指定管理者制度を導入した。これにより、充実した緑地になったと思う。

(辻野委員)

- ・生田緑地に訪れる人は、指定管理制度導入後は増えているようであるが、本来の自然保護という側面もあるので、両立するのが難しいのが課題だと思う。
- ・川崎市では、どちらかと言えば生物多様性の自然を保護するということをメインにしていると思う。生田緑地については、そういう面も踏まえて考える必要があると思う。

(安陪委員)

- ・生物多様性の保護と環境を両立していけるようにしていくことが必要だと思う。

(辻野委員)

- ・ゴルフ場も魅力的な資源である。ただのゴルフ場とするのではなく、健康、生涯スポーツという面を強く出したゴルフ場にしたらよいと思う。

(藤原委員)

- ・観光資源を活かして、外から人を呼び込むことが必要だと思う。例えば車で来たとしても施設などが使いやすいようにしていくべきだと思う。バラ苑ももっと外から人が来ると思う。何回も来たくなるような施設整備が必要だと思う。

(矢野副部長)

- ・駅前の花壇の整備については、私が提案したものだが、今の駅前は雑然とした状況であるので、それを何とかしたいという提案である。生田緑地へは向ヶ丘遊園駅から行くので、今の雑然とした状況をなんとかしたいと思う。

(辻野委員)

- ・言われる通り駅前の景観が殺風景である。駅前を外から来た人がほっとするようなところになりたい。川崎市全体の駅前は緑が少ないと思う。

(岩野委員)

- ・私は、区内の駅前がみなさんが言われるようにそんなに雑然としては思えない。

(安陪委員)

- ・向ヶ丘遊園駅や登戸駅は、区画整理が進まないときれいにならないと思う。区画整理が終わるのは、まだまだ先である。

(矢野副部長)

- ・区画整理が終わらないときれいにならないのはわかるが何年もかかってしまう。このため、今できることを市民と行政が一緒になってやるべきである。

(細埜委員)

- ・個人的な意見であるが、川崎市は、魅力資源の一つ一つは良いが、計画性がないような気がする。区画整理もなかなか進まない。最近では、向ヶ丘遊園駅に南北自由通路ができたが、高齢者が使いづらい状況である。
- ・区役所の玄関に水と緑のまちづくりという看板があるが、そこに喫煙所をつくってしまい、四六時中タバコを吸っている人がいる。これこそ景観を悪くしていると思う。

(矢野副部長)

- ・区画整理が終わるまで殺風景なままに放っておくということが理解できない。

(細埜委員)

- ・多摩区が川崎市トップで人口減少が始まるということであるが、先日、子ども支援室の方に聞いたが、出生者数は多いようである。どういうわけか子どもが5、6歳になるとどこかへ転居してしまうようだ。

(矢野副部長)

- ・多摩区では、賃貸が多いような気がする。このため、ある年齢になったら転居しようという気になるのではないか。

(杉下部長)

- ・区画整理の話がでていますが、これはまだ30年くらいかかりそうなので区民会議にはふさわしくないように思える。多摩区の魅力を頭の片隅に置いて考えてほしい。そこで思うのが、多摩区の中を自転車で走ると多摩の横山と言われる緑地がみえて本当に素晴らしい。枳形山を上ると本当にきれいな景色が見える。駅前の中心市街地を10分も歩くと緑地があるという魅力がある。これをどう活かすかなど。

(矢野副部長)

- ・まちなかのモラル・マナーについては何かあるか。

(杉下部会長)

- ・交通に関するモラル・マナーはあまり良くない。特に自転車は放置自転車、携帯やスマホを見ながらの運転などモラル・マナーはあまり良くない。この問題についても何らかの形で良くしたいと思う。

(コンサルタント)

- ・出された意見を振り返ると、多摩川音頭は多摩区の資源なので大事にしたいという意見があった。多摩区の魅力を有機的につなぐ、多摩区は魅力資源がたくさんあるのでそれをネットワークしたいという意見があったが、これはコンセンサスが取れているのではないかという意見があった。多摩区の資源をネットワークして外から来訪する人たちを増やしたいという意見があった。
- ・一方で、多摩区で若い世代が減っているという課題があって、そのためにシングルマザーの支援が必要という意見が出された。その対応のアイデアとして空き家の活用、安く空き家を貸すといったものが出された。それと若者が来るためには住環境を整えないと若者が来ないという意見が出された。住環境とは、居住費が安いことや教育環境が整っていること、そして多摩区が魅力的であることであるという意見が出された。そのために多摩区の魅力を明確にして向上させるということが重要ではないかという意見が出された。そしてその魅力を多摩区の観光につなげたらどうかという意見が出された。
- ・観光で考えると、生田緑地など多摩区の魅力資源で活動している団体が重要になるという意見が出された。そこで、生田緑地を重要なテーマにしたらどうかという意見が出された。
- ・次いで出てきたものが多摩区の玄関である各駅の景観についての意見があった。駅前を花壇で飾るなど、区画整理が終わっていないながらもできる範囲できれいにしていくべきであるという意見が出された。
- ・そのような意見を整理すると多摩区は魅力がたくさんあるということと、その魅力を明確にしてどう活かしていくのか検討する、深める必要があるということだと思う。その中で生田緑地が象徴であり、今後のテーマとして生田緑地なのか、それとももっと広く魅力をとらえるかなのかと思う。

(安陪委員)

- ・菅地区に獅子舞があるが、これも多摩区の資源である。高齢者は、獅子舞の練習をしているが、若い人はあまり知らない。これを区内の小学校で知る機会があれば、獅子舞がなくならないし、多摩区の魅力が向上して若者が来るようにならないかと思う。

(藤原委員)

- ・生田地区には生田音頭というのがあるが、盆踊りで流しても誰も踊れない。そういう意味では、学校でやってもらうことが大事だと思う。登戸小学校では、運動会で多摩川音頭をやっているそうだが、そういうような取組をもっとやってほしい。

(コンサルタント)

- ・多摩区の魅力はいろいろあるという話であるが、みんなが共有しているわけではない。このため、魅力を共有することが重要だと思う。

(辻野委員)

- ・多摩区には、多摩川梨があるが、最近はどうなのか。

(安倍委員)

- ・最近はや付面積が減っている。昔は梨もぎが有名であったが、今は梨の流通に載せるだけで精いっぱいらしい。

(辻野委員)

- ・麻生区では禅師丸柿をクローズアップしている。多摩区でも多摩川梨を活かしたらどうかと思う。

(安倍委員)

- ・多摩区では、多摩川梨以外にのらぼう菜がある。とてもおいしい。これも魅力だと思う。

(コンサルタント)

- ・これまでに多摩区の魅力がたくさん出されている。これらを大事にする。それと、多摩区の魅力を外に発信するということが大事のように思える。

(辻野委員)

- ・多摩区の魅力を掘り起し区民に周知する。それを区外に発信するということが大事だと思う。

(矢野副部長)

- ・今はインターネットの時代なので、海外にも発信できる。

(コンサルタント)

- ・シティセールスの考え方では、住民が自分のまちを愛してもらい、そして住民がスピーカーになってもらい外にアピールするという考え方がある。

(辻野委員)

- ・今日は検討の方向性を検討することが大事だと思うので、多摩区の魅力を発掘し、多摩区の魅力を再生し、発信するという方向でどうか。

(荒井委員)

- ・現実に生田緑地をはじめいろいろなところで活動が行われている。それを把握して具体的にどんなことができそうなのか検討するべきである。

(コンサルタント)

- ・過去の区民会議でも観光が検討されている。また区内でもさまざまな市民活動が行われている。そのようなことも把握して検討することが必要だと思う。

(事務局)

- ・過去にある程度のことは、検討はされている。しかし、過去に検討したことも今では状況が変わっていることもあるので、検討することはできると思う。このため、テーマを決めたら具体的に何ができるかということ勉強しながら検討できると思う。

(杉下部長)

- ・多摩区民は意外と生田緑地に行っていないと思う。これに代表されるように区民自体が多摩区の魅力をあまり知らない。そのため、まずは区民から知ってもらうことが大事だと思う。

(矢野副部長)

- ・魅力のアピールについてはわかったが、もう一つの課題である若い世代が定住するというところについてはどうすれば良いか。これについても検討する必要があると思う。

(細埜委員)

- ・定住しないにせよ、一度は多摩区に住む人が多いのだから、多摩区に魅力はあると思う。

(杉下部長)

- ・次回の部会では、今日の意見で出された「多摩区の魅力を掘り起こし区民に周知する。それを区外に発信する」と「若者世代の定住」を踏まえて、検討の方向性について検討したい。

(4) 審議課題の検討方法について

※審議課題の検討方法については、次回に検討する。

3. その他

- ・次回は、1月30日（金）18時～開催する。

以上